

様式第4号（第6条関係）

2025年6月6日

富士見市議会議長 勝 山 祥 様

会派名・代表者 日本共産党

又は無会派議員名 川畑 勝弘

行政視察・研修（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察・研修（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

記

- 1 期 間 令和7年5月24日～令和7年5月25日（1泊2日）
- 2 参加者名 川畑 勝弘
- 3 場所（行政視察地・研修場所）
京都ノートルダム女子大学（京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地）
- 4 調査・研修概要
第23回全国大会in京都 シンポジウム 若年女性のエンパワメント
とフェミニストカウンセリング
シンポジスト
・野坂 祐子 （大阪大学教授 臨床心理士 公認心理士）
・池田 裕美枝（一般財団法人SRHR Japan代表 産婦人科医）
主催 特定非営利活動法人日本フェミニストカウンセリング学会

5 感想及びまとめ

① 若年女性のエンパワメントとフェミニストカウンセリング

講師 野坂 祐子

これまで、民間のカウンセリングルームや男女共同参画センターには、若い女性の来訪があまり見られなかった。その対策として、2015年に京都性暴力被害ワンストップ相談支援センター「京都SARA」の運営を京都市から受託したことにより、公費でカウンセリングを受けられるようになり、若い女性からの相談が増加した。

そして、2024年に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行され、これまで十分に支援が行き届いていなかった若年女性への支援が注目された。公的支援機関や民間団体など多方面にわたる課題解決のため、ネットワークの確立が重要であるという講演内容であった。

② SRHRと「わたしとからだから」講師 池田裕美枝

SRHR (Sexual and Reproductive Health and Rights / 性と生殖に関する健康と権利) は非常に重要であり、1994年には「教育と健康手段の提供」や「ジェンダー平等の実現による女性のエンパワメント」が世界的に合意された。

その中には「避妊の知識と手段」、「危険な中絶の撲滅」、「性感染症の治療」、「不妊治療」、「婦人科がんの治療と予防」、「母子保健」などが含まれている。

SRHRを考える上では、「私のからだだから」という視点が重要である。これまでの自己決定とされてきた、「私は家族のために結婚すると決めた」、「好きな人に求められたら、嫌われないように応じる」、「医師が勧める第一選択の薬を使う」といった考え方は、頭で納得しようとする人が多い。

しかし、「家族が決めた結婚相手を受け入れるのは怖い」、「身体がこわばって心が弾まない」、「実はその治療法には気が進まず、他の治療法があれば知りたい」といったように、自分の心と身体の声に耳を傾け、「私のからだから」という視点から物事を見ていくことが大切である。

基本的人権の保障には、「私のからだだから」が尊重されることが不可欠であり、今こそ次世代につながる取組が必要である。

分科会

① 自分の経験、他者の経験を尊重し、ハラスメントへの現実的な対処法を考える

講師：田平まゆみ・田口結理（ふえみぱる堺）

ハラスメント問題は社会的に大きな課題となっており、「職場のいじめ」と軽く扱われてきたものが、実際には命に関わる「人権問題」として考える必要がある。

ハラスメントは職場に限らず、さまざまな場面に蔓延しており、多くの人が悩んでいる。今後、具体的にどのような対策を講じるべきかについて、現実的な視点から考える場となった。

② DV被害者女性のための加害者プログラムの可能性 II

講師：北川智代（大学院生）・田中剛太（一般社団法人PROVE）・小林涼子

DV被害女性とその支援の現状、そして加害者プログラムについて、今後の展望が示された。DVの加害者が増加している現状に対し、被害女性や子どもが安全な生活を送るためには、被害者支援だけでなく、加害者プログラムの充実も必要である。

支援を提供する側から、これまでの取り組みの経過や、今後の課題と提案についての講義が行われた。

まとめ

今回の研修では、若年女性やDV被害女性に対する支援の重要性とともに、「私のからだだから」というSRHRの視点を通じて、当事者の自己決定権を尊重する支援の在り方について学ぶことができた。また、被害者支援だけでなく加害者へのプログラムの必要性にも触れ、包括的な支援体制の構築が今後ますます重要になると感じた。

ハラスメントに関する分科会では、それが単なる「職場のトラブル」ではなく、人権にかかわる重大な問題であることを再認識した。自分の経験や他者の声に耳を傾け、現実的な対処法を考えることの大切さ、そして誰もが安

心して働き暮らせる環境づくりの必要性を改めて実感した。

今後は、支援の届きにくい人たちに目を向け、当事者の声を中心に据えた制度や仕組みを意識しながら、自身の立場でできることに取り組んでいきたい。

＊行政視察に関する調査書、概要、参考資料等は、会派又は無会派議員にて
保管